**若年層対策-SNS相談体制整備事業　「大阪府こころのホットライン」**

**■目的　：**40歳未満の若年層（大学生・妊産婦等）に対して、SNS相談を実施し、個別支援を必要とする対象者の具体的な支援体制の構築に向けて、関係機関と連携し、多様な相談内容に対応できるよう相談窓口を整備する。

**■方法　：　LINEのトークを利用した、チャットによる相談　　（※基本的に匿名で相談可能）**

**■相談日時　：　令和2年5月2日（日）　開始**

**３回/週　( 水曜 ・ 土曜 ・ 日曜 )**

**17時30分～22時30分　　（※受付終了：22時）**

**○若年層における自殺対策の課題**

若年者の自殺者数は年々増加傾向にある。全年齢における自殺者数は減少傾向にあるが40歳未満の若年者、特に20歳未満の自殺者数が増加している。

また、自殺対策として大きな役割を果たしてきた電話相談においては、相談者のうち若年層の相談が少ないことから、若年者に合わせた相談窓口及び悩みに応じた支援体制の整備が必要である。

**○《妊産婦》相談支援体制**

１）事業周知

　　　妊産婦に対してもれなく事業周知ができるよう、府内市町村（政令市含む）において、母子手帳配布時などに事業案内を依頼した。

　２）支援体制の整備

　　　市町村及び府保健所等の母子保健と精神保健担当部署へ事業周知と併せて、個別支援について依頼を行った。

**○《大学生》相談支援体制**

大学との連携－地域自殺実態プロファイルデータ（2014-2018年）より自殺で死亡した大学生（100人）のうち、原因・動機が「学校問題」であった者が53人（53％）と一番多かったことから、学生ならではの相談に対応するうえにおいても大学との連携が不可欠であることから、府内大学55校に対して**「協力校」**を募集し、応募のあった大学の生徒に対してSNS相談を実施した。

１）協力校の役割：

①事業周知（QRコード等の掲示・配布）、

　　　②本人が学校における支援を希望した場合の連携

２）協力校　　**１２校（総学生数　７１，５７９人）**（令和2年10月15日現在）

　３）**大学への訪問**（事業説明及びメンタルヘルスに関する相談支援についてのヒアリング）：**15大学**

○ＳＮＳ相談実績（9月30日時点）

　１．友だち登録数：151人（有効友だち数

２．相談件数　　：162件

３．性別　　　　：男11件（6.8％）、女98件（60.5％）、不明53件（32.7％）

４．年代別　　　：10代-27件(16.7％）、20代-51件(31.5％）、30代-14件(8.6％)、

40代-5件(3.1％)、不明65件（40.1％）

　５．相談内容　　：「学校（進路・就職など）」24件（14.8%）、「学校（学業など）」13件(8.0％)、

　　　　　　　　「学校（人間関係）」4件(2.5%)、「メンタル不調」15件(9.3％）、

「健康」11件（6.8％）、「家族」10件(6.2％)、｢経済・生活」8件(4.9％)　他